

人間開発(社会、教育、医療)プロジェクト 人間開発と教育グループ

フィリピンの低所得者層地域における 糖尿病患者のQOL向上を目指して ～保健教育のあり方を考える～

■ 看護学の立場から人間開発の実現に挑む

人間開発プロジェクト「人間開発と教育グループ」はフィリピン共和国をフィールドとして、糖尿病患者のピア(患者同士)サポートシステムの構築と糖尿病患者のQOL向上を目指しています。プロジェクト名にある「人間開発」とは、国連開発計画において、「人々が長寿で健康かつ創造的な人生を享受するための環境を創造すること」と定義されています。生活者としての人間を対象とし、対象者の生活過程を整えること、価値ある変化をもたらすことを目的とする看護学の立場から、人々が自ら健康的な生活を創造するために必要な自信や意欲、行動化を図る保健教育を実践し、フィリピンにおける糖尿病患者を対象として「人間開発」を実現するモデルを形成しようとしています。

フィリピンはASEAN第2位の人口を有します。人口構成上若者が多く、貧富の差が大きく、失業率やエンゲル係数が高い典型的な発展途上国です。フィリピンの糖尿病有病率および死亡率は年々上昇し、その背景として、急速に進む高齢化や生活スタイルの欧米化とともに、高脂・高糖の飲食物が安価で手に入るようになったこと、肥満、運動不足、喫煙率の高さが挙げられます。また、フィリピンは日本から近く、保健教育には欠かせない継続したサポートを実施しやすい環境にあることから、糖尿病の保健教育モデルを構築する対象地域として選びました。



パテロスの町なみ

■ フィリピンの低所得者層地域における 糖尿病患者の実情

調査を行ったパテロスは、16市1町からなるメトロマニラ唯一の町で、10のバラガイ(集落)からなります。メトロマニラで最も所得の低い地域で糖尿病死亡率はフィリピン全土の中でも高い地域であり、糖尿病に罹患すると、患者は治療

のために大きな負担を強いられることになります。市街地ではファストフード店や露天商、交通、道路事情により運動に適さない環境、足に傷が生じやすいサンダル履きなど、糖尿病の発症や悪化につながる生活環境が目につきます。

パテロスにはヘルスセンターが管轄する糖尿病クリニックと各バラガイにヘルスステーションが設置されています。ヘルスステーションではミッドワイフ(有資格、助産師)が、直接住民に接し、疾病予防プログラムの指導、観察や評価を行います。また、医療者、ミッドワイフの指導のもと、資格のないボランティアであるバラガイヘルスワーカー(BHW)が直接的に患者と家族を支えています。さらに、パテロスでは、糖尿病患者会が組織され、クリニックでは、患者会リーダーを中心とした患者ボランティアが体重や血圧・血糖測定、運動指導を行うなど、仲間同士の助け合いが行われていました。

医療者の不足を補う患者会の積極的な交流はパテロスの強みですが、ボランティアメンバーや患者は、知識不足や糖尿病に対する恐れなど様々な悩みも抱えていました。血糖測定や運動指導の改善課題も見えてきました。今後は、さらに人々の生活や糖尿病の実態を調査しつつ、患者が自分自身に必要な療養行動の自己管理を継続できるように、それをサポートするピアエドゥケーターの育成を行うこととしています。



ミッドワイフとバラガイヘルスワーカー



糖尿病クリニックでの診療風景



【海外ネットワーク】フィリピン(メトロマニラ:パテロス町)

人間開発(社会、教育、医療)プロジェクト
人間開発と教育グループ

谷村千華

Chika Tanimura

【所属】医学部保健学科 准教授
【専門】成人看護学。慢性疾患を持つ患者の自己管理能力およびQOLに関する研究、がん看護に関する研究、看護教育に関する研究、発展途上国における保健教育に関する研究を実施。